

2 研究の実際 > (2) 活動プログラムの実際

カ 検証結果<高等学校>

【検証の視点 I - A : 関心】

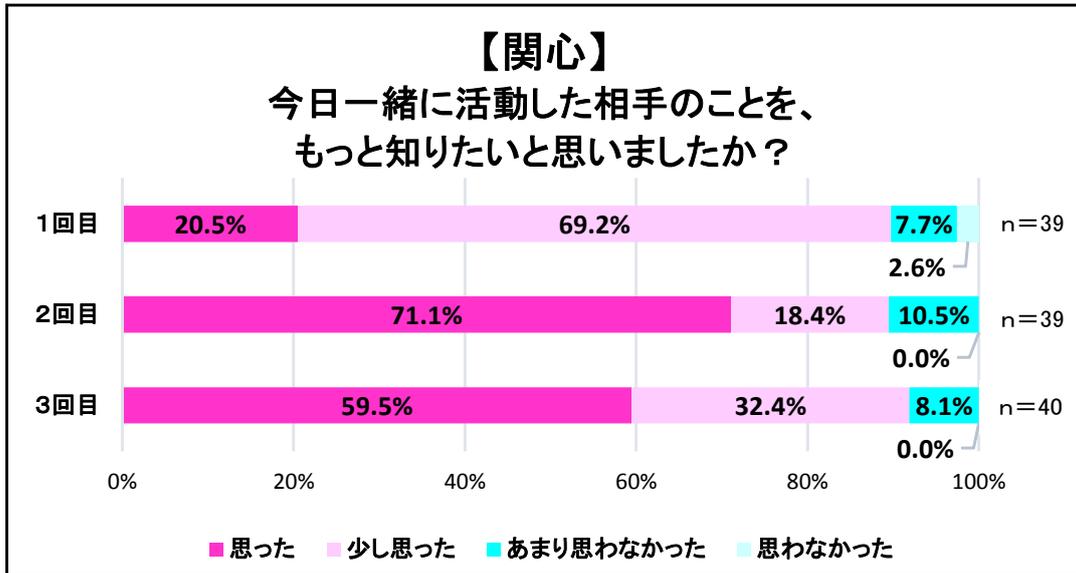


図1 生徒の友達に対する関心の変化

○「思った」「少し思った」と回答した生徒の割合は、1回目が89.7%、2回目が89.5%、3回目が91.9%でした。その理由として、「今まであまり話したことがなかったけれど、一緒に活動してみたら意外と楽しかったから」という記述が多く見られました。一方、「あまり思わなかった」「思わなかった」と回答した生徒の割合は、1回目が10.3%、2回目が10.5%、3回目が8.1%でしたが、その理由として、「すでに十分知っていた相手だったので、これ以上知りたいとは思わなかったから」という記述が見られました。これらのことから、ほとんどの生徒はペアやグループでの活動を通して、学級の友達に対する関心を高めることができたと考えられます。

【検証の視点 I - B : 親近感】

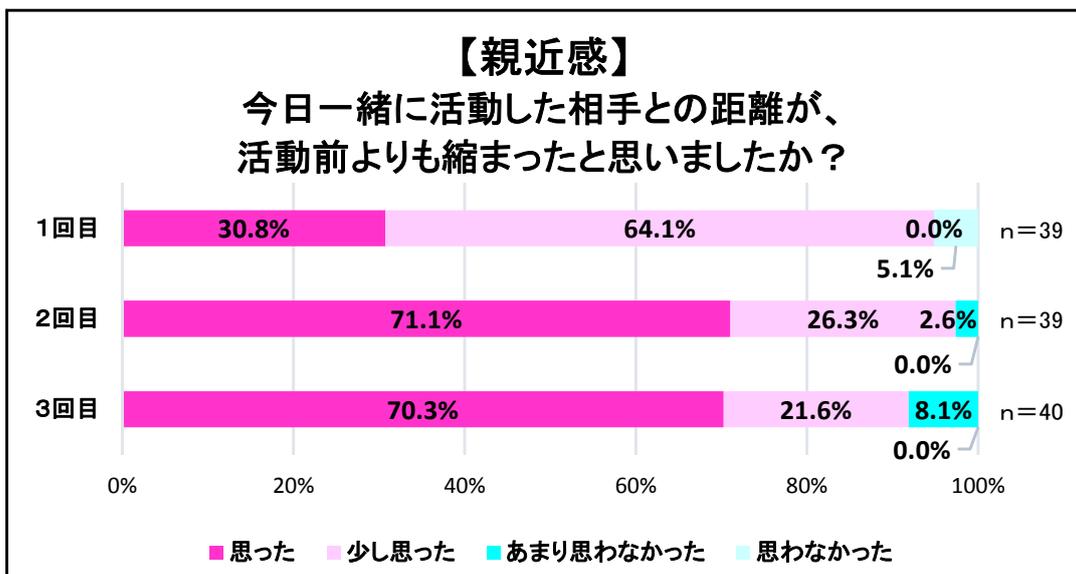


図2 生徒の友達に対する親近感の変化

○「思った」「少し思った」と回答した生徒の割合は、1回目が94.9%、2回目が97.4%、3回目が91.9%でした。その理由として、「一緒に活動して、相手の気持ちが分かったから」「気軽に話しかけられるようになったから」という記述が多く見られました。一方、「あまり思わなかった」「思わなかった」と回答した生徒の割合は、1回目が5.1%、2回目が2.6%、3回目が8.1%でしたが、その理由として、「もともと仲が良かったから」という記述が見られました。これらのことから、ほとんどの生徒はペアやグループでの活動を通して、学級の友達に対する関心を高めることができたと考えられます。

【検証の視点Ⅰ－C：仲間意識】

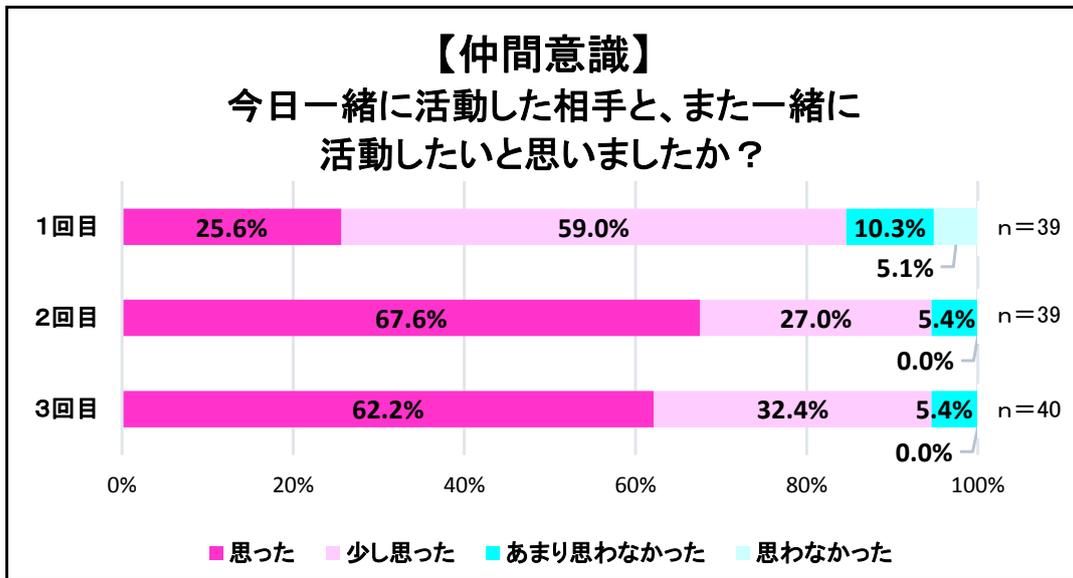


図3 生徒の友達に対する仲間意識の変化

○「思った」「少し思った」と回答した生徒の割合は、1回目が84.6%、2回目と3回目が94.6%でした。その理由として、「もっと話したいから」「もっと仲を深めたいと思ったから」という記述が多く見られました。一方、「あまり思わなかった」「思わなかった」と回答した生徒の割合は、1回目が15.4%、2回目と3回目が5.4%でしたが、その理由として、「他の人とも活動してみたいから」という記述が見られました。これらのことから、ほとんどの生徒はペアやグループでの活動を通して、学級の友達に対する仲間意識を高めることができたと考えられます。

【検証の視点Ⅱ－A：学級の雰囲気】

オ 検証内容と検証方法 について

↑こちらをクリックすると、検証の視点を見ることができます。

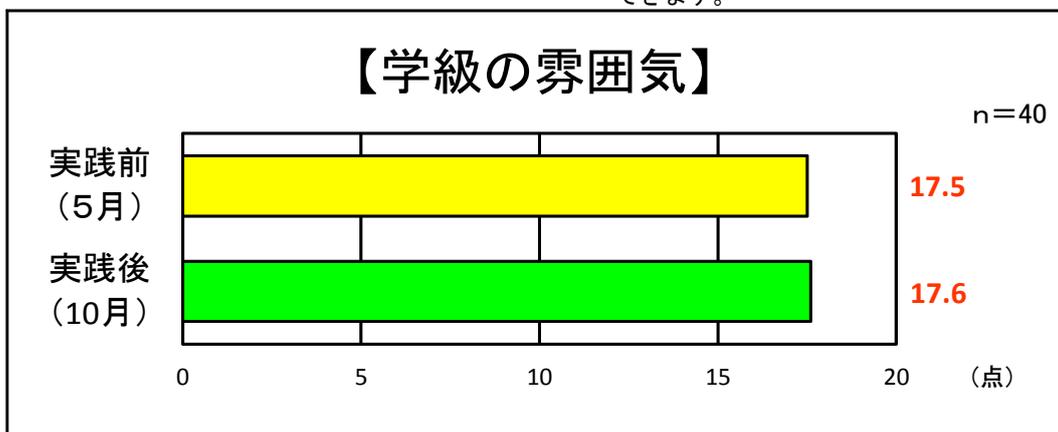


図4 生徒の学級の雰囲気に対する意識と行動の変化

○活動プログラムにおける授業実践の前後で、数値が0.1ポイント上がりました。また、生徒のワークシート等には、学級の雰囲気について「授業を受けて、学級の皆が同じようなことに気付いているので、皆が意識すればトラブルは起こらないと思う」「皆が同じことを考えていたので、これからこの学級で気持ちよく過ごせると思う」という記述が多く見られました。これらのことから、ほとんどの生徒は、ペアやグループでの活動を通して、今後、学級の雰囲気が良くなっていくと感じていると考えることができます。

【検証の視点Ⅱ-B：友達との関係】

オ 検証内容と検証方法 について

↑こちらをクリックすると、検証の視点を見ることができます。

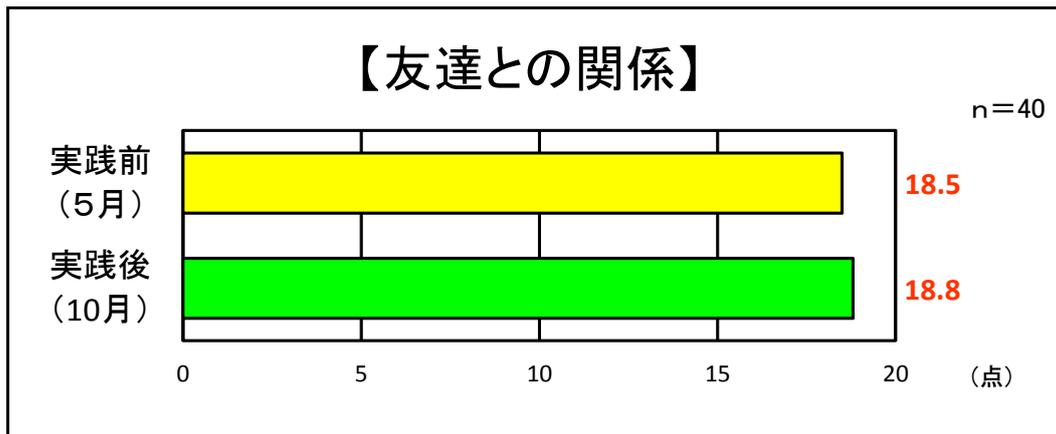


図5 生徒の友達との関係に対する意識と行動の変化

○活動プログラムにおける授業実践の前後で、数値が0.3ポイント上がりました。また、生徒のワークシート等には、友達との関係について「授業で実際にロールプレイングをやってみて、友達に自分から声を掛けようと思った」「学習を通して、学級の友達に目配りや気配りができるようになった」という記述が多く見られました。これらのことから、ほとんどの生徒は、ペアやグループでの活動を通して、今後、友達との関係が良くなっていくと感じていると考えることができます。